┌┬┬┬

イベントのお知らせ

■【調査研究発表会（旭川）の開催について】

日程：平成２３年５月１８日（水曜日）
場所：大雪クリスタルホール（旭川市神楽３条７丁目）

平成２２年度調査研究も年度末を迎えて、今年度成果のとりまとめが大詰めを迎えています。
例年通り、終了した研究課題については調査研究発表会（旭川）を開催し、皆様へ報告いたします。
平成２２年度は２１年度と比べて２倍の終了課題数があること、昨年のアンケート調査では１日間の開催のほうがよいという意見をいただいており、今回は分科会形式による１日間の開催することといたしました。
このため、大雪クリスタルホールをお借りしての旭川の発表会では初めて所外施設での発表となります。
開催日は５月１８日となりますが、開始時間や発表プログラム等については、現在検討中で、確定し次第、速やかにお知らせいたします。

連休明けでお忙しい時期であるとは思いますが、ぜひ足を運んでいただけるようお願いします。

（企画課　伊藤）

特集　「構造計算適合性判定」のめざすもの

◆制度創設の経緯

平成１７年１１月の構造計算書偽装事件発覚以降、全国で同様の事例が表面化し、構造計算に対する信頼が揺らぐ事態となりました。国は、これを契機に建築確認・検査を厳格化することとして「構造計算適合性判定制度」を導入しました。

これは、一定規模以上の建築物の建築確認申請に対して、建築主事や確認検査機関の審査とは独立して、構造の専門家により構造計算の適法性を判定するもので、北海道では唯一、「構造計算適合性判定センター」（札幌市中央区北３条西７丁目道庁別館西棟）が判定を担っています。

◆「構造計算適合性判定」のいま

平成１９年６月の業務開始以来、本年２月末までに１６５５件（２２１９棟）の判定依頼を受けました。必要な手続き期間や費用が増えたため疎ましく思われがちですが、これまで構造計算書や図面に対し、全く修正追記を要しなかった依頼はわずか１４件だった状況を見ると、このような制度はもうしばらく必要なのかもしれません。

「構造計算適合性判定」は、単に計算の正しさのみのチェックではなく、そこに用いられた数値や仮定の妥当性、計算結果の適切性も含めて判定します。ピア・チェック（専門家によるダブルチェック）ともいわれるように、設計者と判定員は互いに構造の専門家であり、原則面談によるヒアリングによりその設計意図を十分把握し、こちらの審査意図が正しく理解頂けるように努めています。また、建築確認審査の一環として円滑に判定が行われるためには、建築主事や確認検査機関による構造審査も重要であることから、判定センターでは、構造審査技術の維持向上のため各特定行政庁を訪問しての勉強会や意見交換、調査研究による情報提供を行っています。

◆「制度」を通じてめざすもの

地方独立行政法人という公的機関の責務として、判定は建築における道民生活の安全安心のためにあり、厳正適確に実施することが求められます。制度上は「設計者」対「審査者」でも、両者とも構造設計の専門家として、安全な住まい、安心な利用への思いは同じであると推察します。

ともに不断の努力と技術の研鑽により、設計能力、審査能力を維持向上させ、質の高い建築構造設計をめざさなければなりません。今後も立場を問わず構造技術者として技術的な議論ができる環境づくりが求められ、関係団体と協力して講習会への講師派遣や勉強会なども進めていくことが必要です。

（構造判定Ｇ　十河）

研究紹介　「構造計算適合性判定センターにおける調査研究」

建築確認審査の一環である「構造計算適合性判定」を円滑に進めるために、建築確認審査全体での構造審査に役立つよう、「建築確認申請における構造審査等支援のための調査」を実施し、次のような情報収集・分析、情報提供を行っています。

（１）構造審査・構造設計の参考となる情報提供

ほとんどの構造設計者は構造計算プログラムを用いて計算を進めますが、プログラムは多数あってそれぞれ特性があり、同じ建物の計算でも、どれも全く同じ計算結果になるとは限りません。また、構造設計や計算に必要なすべての事項が法令に示されているわけではなく、設計者が建物の特性に応じて適切に判

断しなければなりません。そこで、各種プログラムの出力結果の差異や設計者判断に対する指摘事項を整理し、構造審査者や構造設計者の方々の参考になるようホームページ等を通じて情報提供しています。
http://www.nrb.hro.or.jp/nrbc/kenkyuuseika.html

（２）勉強会による情報共有

審査者同士の審査技術情報の共有はそれぞれの業務に役立つため重要です。毎年、各特定行政庁の建築主事や構造審査担当者の方々にお会いし、構造審査や関係法令規準に関する勉強会や、審査上の問題や疑問についての意見交換を実施しています。ここで集約した意見や審査上の疑問は、さらに整理分析してまた発信されます。

このような調査研究や情報交流により、判定担当者は構造審査を担当する方々とともに常に審査技術の向上をめざし、厳正適確で一貫性のある審査を迅速に進めるよう努めています。

（構造判定Ｇ　十河）

最近の研究所の動き

■【「北総研意見交換会（胆振）」を開催しました】

２月１日（火）に室蘭市において、北総研意見交換会を開催しました。

この意見交換会は、北総研が取り組む研究及び成果の普及、技術開発支援等に関して建築関連団体と意見交換を行いニーズを探ることを目的として開催しているもので、今年度３箇所目の開催となりました。
建築関係団体から５団体１１名と民間企業から１社１名、管内市町村から３市４名、胆振総合振興局から３名の方にご参加いただきました。

胆振の意見交換会では、地域資源を活用した地域の活性化をテーマとして、北総研と連携した取組事例（製品開発事例）をあいもり株式会社の小松様からご紹介いただいた後、北総研環境科学部の吉野研究主幹から現在北総研で実施している地域資源を活用した共同研究事例を紹介しました。

意見交換では、北方型住宅ＥＣＯ普及の原動力となった国の補助制度（長期優良住宅先導事業）を原動力に普及に弾みがついた、今後の北方型住宅や北方型住宅ＥＣＯのあり方、今後の住まいづくりが話題の中心となりました。

そのなかで、世の中に「次世代住宅」「北方型住宅」「長期優良住宅」など色んな言葉がありすぎて、ユーザーがわかりにくい、といった意見がありました。

確かに、ちょっと考えただけでも、たくさんの「○○住宅」といったネーミングが浮かんできます。北方型だけでも、「北方型住宅」「北方型住宅ＥＣＯ」「北方型住宅ＥＣＯプラス」と３つの言葉。
快適な住まいづくりの提案をする上で、このような配慮も必要なんだということを改めて認識しました。

今回の意見交換会（胆振）をもって、今年度は終了となります。
開催地域は未定ですが、来年度も意見交換会の実施を予定しています。
開催にあたりご協力いただきました釧路、オホーツク、胆振の皆様、ありがとうございました。

（企画課　西川）

※※※

特に、北総研が取り組む地場の木材資源を活用した製品開発や太陽熱利用にかかる研究開発、建築物の高断熱技術などに関心を寄せていました。
研究所の施設見学では大型の試験施設や屋外実験住宅を興味深く見学しました。

北海道では同じ寒冷地域のロシア極東地域や中国東北部との建築技術交流が少しずつ進んでいますが、モンゴル国との技術交流もさらに進展するよう、北総研でもお手伝いしていきたいと考えています。

（企画課　古屋）

※※※

験を今後の北総研の普及啓発事業に活かすことができれば、と考えています。

中国調査をまとめた海外訪問記については、北総研ブログにおいて連載しています。ぜひご覧ください。
http://www.do-sumai.jp/weblog08/

（企画課　西川）

※※※

の皆様には、建築確認申請における構造計算書等の不備や不整合がないか確認されますようよろしくお願いいたします。

（構造判定Ｇ　十河）

※※※

発行：（地独）北海道立総合研究機構　建築研究本部　北方建築総合研究所